

いずもぎき

議会だより

第74号

2012
平成24年1月11日



12月定例会

もくじ

-
- ・12月定例会 2
 - ・一般質問(5人が町政をたずぬ) 4
 - ・行政視察報告 9
 - ・町民の声「成長の糧に」 10

12月定例会 (会期 12月5日～12月9日 5日間)

* 12月議会で決まった補正予算 *

本定例会では議会報告2件、平成23年度一般会計補正予算など議案6件が提出され慎重審査の結果、原案のとおり可決・同意しました。

会 計		補 正 額	補正後の予算額
一	般 会 計 (第6号)	1460万 円	36億2686万3千円
一	般 会 計 (第7号)	2000万 円	36億4686万3千円
特 別 会 計	国民健康保険事業 (第3号)	2842万1千円	5億8493万4千円
	介護保険事業 (第2号)	3693万5千円	6億8790万9千円
	住宅用地造成事業 (第3号)	3933万9千円	4945万7千円

一般会計補正予算 (第6号)

主な歳出 (△は減額)

- ・道路新設改良舗装工事追加 (3カ所) …3650万 円
- ・住宅用地造成事業特別会計繰出金追加…3600万 円
- ・放射線測定器…………… 54万9千円
- ・天領の里オープンデッキ補修工事減…△ 940万 円
- ・防災行政無線施設整備工事減…△5843万6千円

一般会計補正予算 (第7号)

主な歳出

- ・道路新設改良舗装工事追加
山谷小釜谷線……………2000万円

人 事 案 件

固定資産評価審査委員 小 黒 重 幸

特別会計補正予算

主な歳出

- 国民健康保険事業 (第3号)**
 - ・一般被保険者療養給付費追加…2332万8千円
- 介護保険事業 (第2号)**
 - ・居宅介護サービス給付費追加…3600万 円
- 住宅用地造成事業 (第3号)**
 - ・団地造成工事……………3000万 円



放射線測定器

21	16	14	12	9	7	6	5	12	11	8	28	27	26	25	24	19	20	14	12	7	10
議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)	議会報特別委員会 (第74号)

議会のイベント (主なもの)

(平成23年10月～12月)

全員協議会

第8回 12月9日開催

主な質疑などについて報告いたします。
町新規園芸施設整備事業の経過について（産業観光課）

4月に全員協議会で計画について説明をしてありますが、その後、栽培・資金計画等について、関係機関と協議を重ね、また、審査会を開催し、協議した結果、計画は妥当との結論になりました。小木地内でのハウスの建設も完了し、

現在「いちご」が順調に育っております。今後、観光農園、加工事業を展開する予定であり、町もソフト面で支援していく計画であります。

【議員】施設を作るより今後が大事、当事者の努力はもちろんだが行政もバックアップしてほしい。学校給食での使用も考えてもらいたい。

新規事業の成功は町にとっても大きなプラスになるのではないか。

石井町の町営住宅の入居者選定について（建設課）

20歳代後半から30歳代前半の13件の申込みがあり、選定に当たっては定住する若い夫婦で子どもさんの多い方で、地域活動などに積極的に参加される方を、優先して入居者を決定したい。



元気ないちご

柏崎刈羽原子力発電所の事故発生時の対応について（総務課）

12月1日に県から過酷事故時における対策の考え方の素案が公表されました。翌2日には、市町村向け説明会が行われ、出席市町村からは、「避難時のバスの確保など市町村間で利害が生じる問題は、県が調整に当たるべき」との要望が出されました。

また、7日には、町内の関係者との意見集約検討会議を行い、「示された素案には海上に関する記述がなく、船への連絡体制などについて検討すべき」などの意見が出されました。

本町としてはこのことについても要望したいと思えます。

【議員】SPEDI（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）の活用や周辺自治体に対する情報関係の協定が必要だと思います。（三輪 正）

常任委員会報告

総務文教常任委員会

平成23年11月8日に、委員全員出席し、教育長・教育課長と小・中学校の視察を行いました。

小学校では、各学年の授業参観を行い、その後、意見交換を行いました。

校長先生からは、少人数指導による成果として、基礎学力や、学習態度が安定してきていますが、書く・話すの、力不足が今後の課題であると説明されました。また、これからも、地域との連携を大切にしていきたいながら、重点目標の「ひとり・みんなで・さらに」に取り組んでいきたいとのことでした。

中学校においても、各学年の授業参観を行い、その後、今年度、改修したトイレを見た後に、意見交換を行いました。

重点目標に『知・徳・体』を掲げ、教育課程の、適切な計画運営を図りながら、意欲を持って学ぶ生徒、お互いを



学校視察（小学校）

思いやる心優しい生徒、目的を持って挑戦し、自ら鍛える生徒の育成に、努めていきました。また、生徒数の減少にともない、団体競技の部活動が減っているなどの課題もあります。今後、議会としての立場から、児童、生徒の安全安心や学力の向上に努めていきたいと思えます。（諸橋和史）

おたずねします お答えします



仙海直樹
議員

プレミアム商品券の 発行について

質問 今日の地元商工業者を取り巻く環境は、景気の低迷や人口減少、消費者ニーズの多様化などで、厳しい状況といえます。地域経済の活性化という意味において、2回目となるプレミアム商品券『良寛』を、発行できないものか伺います。

答弁 県内においては、現在7つの市町村で発行しています。景気も低迷しているので発行を視野に入れて、検討したいと思います。発行については商工会がどのように考えているのか、協議しながら前向きに考えます。

質問 前は町内の方のみの販売でしたが、町外より町内に通勤されている方や、東京出雲崎会の方、姉妹都市の柳津町の方などにも販売してはどうでしょうか。

答弁 前回は町内の方のみの販売でしたが、町外より町内に通勤されている方や、東京出雲崎会の方、姉妹都市の柳津町の方などにも販売してはどうでしょうか。継続することにより効果が表れると思いますが、いかがですか。

前向きに検討

質問 冬場に激しい下痢やおう吐を引き起こす、ロタウイルスによる胃腸炎の重症化を防ぐための、幼児向けのワクチン接種が、日本でも始まりました。経口ワクチンで、生後6週から24週にかけて行います。2回の接種でおよそ

ロタウイルス ワクチンの 一部助成は



地域経済の活性化

3万円かかるため、自己負担が大きく、助成できないものか伺います。

答弁 当町は本年度から任意接種の水ぼうそう、おたふく等の予防接種にも助成をしています。ロタウイルスの予防接種は、日本では始まったばかりなので、県や他市町村の動向を見ながら検討し対応したいと思います。

質問 働いている保護者は、急に子どもの具合が悪くなると、会社を休んで病院に行かなければなりません。そのような負担の軽減からも、助成の意義はあると思いますが、いかがですか。

町も責任をもって

答弁 生まれてきた大事なお子さんを健康に育てるのは、町も責任があると思います。育児にも最大の努力をし、質問の趣旨は十分に理解できますので前向きに検討します。

消防団員の 確保について



田中政孝 議員

質問 平成16年の中越大震災、19年の東日本大震災、3月11日に起きた東日本大震災、また、毎年のように起こる未曾有の、自然災害や、火災など、消防団員の活動は多岐にわたり、職務分担当は大きいものがあります。今の消防団の現状と、団員確保について伺います。

答弁 本町の団員状況については、定員は170人で、現在165人の人員であり、5人の欠員が生じており、充足率は97%となっています。昨年が10人の欠員であったので、だいぶ努力して、改善しているのが事実であります。現在職場の多様化により、日中、町内が職場という団員は4割弱という状況であります。その対応として町は、職員の消防隊を編成して、いったん有事のときには、速やかに出動できる態勢で臨んでいます。

関川村が、今、充足率100%という状況ではありますが、あくまで地域が責任をもって選出しています。

本町としては、定員割れが多い部については、これ以上進まないように、個別の状況を把握して、対応をきちんとするよう強く要請し、地域の会合や、区長会議などで、積極的にお願いしています。团长も区長の皆さまにお願いしています。また、団幹部も地域と一緒に、積極的に行動しています。

ソフト面では、特定の役割にのみ従事する、団員制度として、機能別消防団員制度を取り入れたい。また、OBの方からも、今までの経験を生かして、再入団などを考慮しながら、自主消防の、充実を図っていききたいと思えます。

隣接する消防団との スムーズな連携について

質問 いかにも迅速に消火活動ができるかが、一番重要であります。仮に当町の第2分団に出動命令が出たとき、同時に、隣接する和島地区の消防団から、スムーズな連携のなかで、お互いに協力できるような協定が必要と思えますが、いかがですか。

答弁 災害を最小限に食い止めるのであれば、当然必要かと思いますが、それぞれ管轄があり中部消防応援協定のなかで、より細かく具体的に対応できるか、検討が必要だと思います。今後、具体的な案を持ち寄ってより効果的に、より住民の安全、安心を確保できるか検討したいと思えます。



日夜訓練に励む消防団員

漁業問題について



中川 正弘 議員

ヒラメ養殖場跡地の活用は

の活用は

質問 平成12年にヒラメ養殖が休止されてから、建物は荒廃し無残な姿を呈しており、元に戻すには、種々の問題が発生しますが、いつまでも放置しておかないで、町が中に入り、さらなる有効な土地活用を考えるべきではないでしょうか。

答弁 町は一石三鳥を考えています。残骸の撤去・広大な土地の有効活用・町を活性化させるようなもの呼び込むことです。一挙に解決する為には労は惜しみませんが「跡地の利用」それをどうクリアするかが課題です。

漁業にテコ入れを

質問 漁業は衰退の一途をたどっており、平成元年に比較すると、昨年では、組合員数

は、約1/3に、船舶数は1/2に、水揚量は1/3に、水揚金額は1/4にまで下がりました。魚価の低迷と、急激な縮小のなか、将来の展望が開けずじまいます。6次産業化が叫ばれるなか、急いで町が中に入り、抜本的なテコ入れをすべきではないでしょうか。

新規に漁業をやりたい人や、加工業をやりたい人を誘い込み、手厚く補助すべきだと思います。漁業は存続の瀬戸際に来ています。前向きに根底からの、積極的な支援が必要だと思います。

答弁 漁協を中心として、大きな事業展開をするのは、意欲があるか否かに掛かっており、難しいと思います。それよりも小さな事から、実績を積み重ねていく事が大事だと思います。早急その為の行動に移りたいと思います。

漁業は町にとって大事な1次産業です。現状維持ではな



ヒラメ養殖場跡地の現況（尼瀬地内）

く、少しでも良くなるよう、これからも意欲のある人や、起業者を、積極的に支援してまいります。

総合的な 人口減少対策について

今までの対策の評価は

【質問】 平成22年の国勢調査の結果、県内で人口増加は、聖籠町と、弥彦村のわずか2町村です。平成21年の日本世論調査会の調査では、地域の不安の1位は、人口減少と高齢化という答えでした。

人口減少対策については、以前から、先輩・同僚議員等も質問されていますが、今までの対策の内容と評価について伺います。

宅地分譲で人口減少抑制

【答弁】 本町は、昭和45年に過疎地域に指定されて以来、40年間過疎対策に取り組んできました。町民の利便性の向上のため、町道、上・下水道、教育、文化、スポーツ施設などの整備や、宅地分譲を積極的に進めて、人口流出を

抑制してまいりました。

川東、深町両団地で町外から118人が、てまり団地は町外から90人の方が住み、若い人に、新生活支援金支給制度を取り入れて、多くの若い皆さんが定住されております。宅地分譲が無かったら人口の減少はもっと大きかったと思われる。

「人口減少対策委員会」の立ち上げを

【質問】 石井町の若者向け町営住宅は好評で、多数の申込みがあったと、報告がありました。宅地分譲は有効であり、今後も進めてもらいたい。また、少子化、婚活、健康、雇用など、総合的なソフト対策を推進するため、町長直属の「人口減少対策委員会（仮称）」を立ち上げて、町全体で強力に対応すべきと考えるが、町長の考えを伺います。

婚活、宅地造成を進める

【答弁】 住宅団地造成、若者誘導型住宅建設を引き続いて進

めます。ソフト面では、子育て、健康増進と、若者の出会いの場を作り、婚活に取り組むみたいと考えております。



進む宅地造成（てまり団地）

住宅用火災警報器の

設置について

早急に全世帯設置を

【質問】 6月の全員協議会で設置が完全設置40%、一部設置15%で、合計で55%しかないという報告でした。県内では小千谷市が、昨年12月で約70%の設置率です。町職員、消防団員の住宅は、重点的に取り組む方針でしたが現状をお聞かせ下さい。

一人暮らしと 海岸地区を重点に

【答弁】 100%の設置を目指して努力します。一人暮らし世帯の取り付けについて考えています。特に、住宅密集地である海岸地区を重点的に取り組むべきと考えております。



三輪 正 議員

北国街道

妻入りの街並景観の維持は



田中 元 議員

建物景観、 店舗の増加や休憩所は

質問 街並景観の維持については、行政は力を入れ道路路面は完成に近くなり、今後は建物の景観維持が大切です。重点地区として、妻入り会館から、石油記念公園入口までの、約600mが、指定されて



妻入りの街並

います。この地域に町外からの集客をするため、行政はどのような施策を続けられるのか、全国と同様な地域の賑わいのある場所は店舗、休憩所は大変多いです。当地区は店舗は少なく、空地・空家が目立ちます。店舗・休憩所の増加についての考え方を伺います。

自然体で新規開拓を

答弁 妻入りの街並景観は、町が全国に誇れる景観です。いかに外来の方からおいでいただくかがポイントです。出雲崎ふるさと語りべの方々の努力により、集客増加がみられ喜んでいます。

町民のみなさんにはご理解いただき、景観修復に、対応していただいています。町としても、消防ポンプ小屋、購入した津又邸、青山邸（旧新津邸）など、景観の修復を考えています。現実には厳しく一挙に解決できません。店舗問題については、空地・空家バンク等で紹介し、大勢のみなさんからきていただくよう努力しています。

店舗開設は、家族構成や状況を察するに、町として積極的にすすめることは、無理があります。町の呼びかけに、自主的にやってみようかということであれば結構だと思います。机上で書いたり話しをすることは簡単ですが、現実にあてはめると難しいと考え

ます。

自然体の中で、どこが拠点としてできるかいなか、新規開拓しながら、進めていきます。

電線の地中化は

質問 現地を歩いた時、目につくのは、東北電力とN.T.Tの柱の多さです。住民が生活しているためやむをえません。先進観光地では目につきません。

数年前にも一般質問しましたが、電線の地中化について、再度検討される考えがあるか伺います。

地中化は無理

答弁 まちづくりで大賞を受けた地区、福井県鯖江市でも、道路沿いに電柱はたっていました。地中化や移設には経費がかかり、道路整備も進み、修復も大変です。実施は到底無理だと考えます。

行政視察報告

(平成23年10月19日~20日)

熊本県 御船町

議会改革・さらなる議会活性化について

みふね 御船町は人口約1万7700人、面積は99km²。主な産業として、吉無田高原野菜のブランドで、キャベツ、大根、きゅうりなど、全国出荷されています。

お茶や、熊本の伝統野菜の水前寺菜を、生産者の皆さんと共に、普及に力を入れて、町の特産にする取り組みをしております。また、恐竜の化石が発見されていることから、恐竜の里としても知られています。

平成22年度には『政策づくりと監視機能を十分発揮している議会』、『住民に開かれた議会』、『先駆的な取組をした議会』という観点から、全国町村議会特別表彰を受賞しております。

主な取り組みとしては、議会の会期を年1回とする、通年議会の導入、委嘱を受けた住民6人による議会モニター制度（議会や委員会を傍聴して提言書を提出）、住民からの要請により実施する意見交換会（あおぞら会議）や、住民と情報を共有するため、議会だよりの毎月発行など、

議会基本条例を制定して、改革を進めていました。

出雲崎町議会においても、平成16年より議員定数の削減や、議員歳費の削減、その後、一般質問における一問一答制の導入、出まえ議会の開催など、改革を進めるなかで、議会改革における先進地を、5年間視察してきました。

今後は、その視察の成果を形にして、スピード感を持ったなかで、議会改革に取り組んでいかなければならないと考えます。（仙海直樹）



御船町にて議会改革のやりとり

長崎県 大村市

おおむら夢ファーム『シュシュ』

6次産業への取組

おおむら夢ファーム『シュシュ』は、平成12年大村市の8戸の農家が共同で、ビニールハウスの農産物直売所を始めたのがスタートです。

その後、アイス・ジェラート・パン工房、収穫体験施設、レストラン、体験農業塾などを展開、大村市の人口の約45倍の、約49万人が年間に訪れ、そのうちの約1万人は地域の活性化を図ろうと、全国から視察に訪れる方です。

平成19年には、全国地産地消コンクールで農林水産大臣賞、平成21年には、グリーンツーリズム大賞を受賞、直売所を地域の交流の拠点にしています。

特に、体験農業については、子ども達が喜ぶ、収穫体験や、地産地消のクッキング教室を企画し、それらを商品化することによって、メディアにうまく宣伝してもらい、経営の工夫をしていました。

また、6次産業ということで、様々な商品開発を行っています。

商品ができてあがって終わりではなく、売れて黒字になってはじめて成功になるわけで、販路も一つの課題と説明されました。

本町においても、第1次産業にも恵まれており、町の産業の一つとして6次産業への取り組みも必要と考えます。

J Aの跡地の活用や、船橋地内の中永トンネルの残土埋め立地、ヒラメ養殖場の跡地の活用など、今後、議会としても、方向性を持って取り組んでいかなければと考えます。（仙海直樹）



夢ファーム シュシュにて

町民の声

成長の糧に



上中条 山後益雄



新潟国体入場行進

2009年新潟国体の時、ある会話がきっかけで「なぎなた」の試合を見に行きました。初体験の試合会場の様子は、今まで無かった新鮮な感動を受けました。そして、定年後の暇にまかせて、クレー射撃、空手、馬術、カヌー、剣道、テニス、ホッケー、アーチェリーと、馴染の無い競技を見て回りました。各々の試合や、応援など会場の雰囲気は、それぞれの味があり深く心に残りました。その話を始めると切りがありませんが、例えば「なぎなた」の応援は、武家の娘を見るような感覚を覚えました。「馬術」は英国紳士を思い出させるようでありました。日本人は昔から、外国の新しい文化等を取り入れ、独特な日本文化を築くと共に、技術も高めて来ました。

私達も会話、旅行、ニュースなど身近にある媒介を通じて、新鮮なものに出合う事はいっぱいあります。その観察や感動を、自分の成長の糧にしていきたい。そのことが社会に活かされるように出来れば、なお素晴らしいことです。

表紙の小話



毎年恒例の、出雲崎保育園のもちつき大会が、ライオンズクラブの応援で行なわれました。園児の皆さんは、いつも心待ちにしています。未来の出雲崎を担う子ども達。年長組のもちつきを年中・年少組が大きな声ではげます姿は、ほほえましくもあり、たのしくもありました。ライオンズの方々のご継続に感謝するとともに、白いお餅に願いをこめ、新しい年を迎えたいと思います。

編集委員一同

訂正
前号の「表紙の小話」の中で、第93回全国高校野球選手権大会とありましたが、正しくは、第83回選抜高等学校野球大会の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集後記

穏やかな新年を迎えた昨年でしたが、3月定例会中の3月11日の、東日本大震災で状況が一変し、社会の状態が震災一色の一年でした。

10カ月になり、復興の足音が少しずつ聞こえてくるような感じがします。しかし被災地の方々は、まだまだ大変な日々が続いています。本格的な冬に入り、心からお見舞い申し上げます。

出まえ議会で、町民の方々からの要望に答えるべく、今回の議会だよりを1カ月前に発行することにし、1月発行に、委員全員で全力をあげ、発行にこぎつけました。今までより、1カ月短く編集も大変でした。今回の議会だよりは、会期の関係で難しい面もありますが、1カ月後には発行できよう、努力してまいります。

(田中 元)